

令和4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601628	事業の開始年月日	令和2年3月1日
		指定年月日	令和2年3月1日
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	ゆとり庵麻溝グループホーム		
所在地	(〒252-0335) 神奈川県相模原市南区下溝1980-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年2月16日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員が考えた献立を元買い物に行き、毎日温かい手作りの食事を提供しています。季節の食材を取り入れ、イベント食や郷土料理など、利用者様と一緒に食事を楽しめる時間を大切にしています。</p> <p>看護小規模多機能と訪問看護ステーションが併設になっている為、インシュリン注射が必要な方も入所が可能になっています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月16日	評価機関 評価決定日	令和5年5月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 当事業所は、JR相模線「原麻駅」から徒歩10分ほどの自然環境が残る住宅地に位置している。周辺には緑豊かな相模原公園があり、桜や紅葉の時期には市民の憩いの場所になっている。同一法人の3事業所がある1つの建物の1階、2階が2ユニットからなる当グループホームである。ホームに隣接して看護小規模多機能型居宅介護と訪問看護ステーションの各事業所が併設されている。コロナ禍での開所で、地域との連携が難しい時期に、コロナのクラスターの発生や、職員の入れ替わりなど、多様な課題もあったが、管理者と職員が一丸となり、様々な課題に取り組んでいる。また家族の思いを慮り、感染症対策を施し、面会や利用者が家族と一緒にの外出を再開している。</p> <p><b>【介護と医療の連携】</b> 同一建物内に3つの介護事業所が併設され、互いに連携を取った運営をしている。看護小規模多機能型居宅介護事業所と訪問看護ステーションがあることから、医療行為の必要な利用者の受け入れも可能になっている。訪問看護ステーションの看護師が、利用者の健康管理の他にも、糖尿病の持病がある方に毎日インシュリンの注射の為、来所し、傷の処置が必要な時も来所してくれる。また事業所に看取りの方がいる時には、職員にアドバイスし、協力してくれる。看取りやエンゼルケアの職員研修への協力も得ている。訪問看護ステーションの理学療法士から骨折で入院した方の退院後の生活や歩行、リハビリについてのアドバイスを受けている。看護小規模多機能型居宅介護を利用しての方がグループホームに入居された事例がある。</p> <p><b>【季節感を大事にした手作りの食事】</b> 3項目からなる理念の1つに「季節感を感じることを大事にします」を掲げている。事業所は、食事やフロアに飾る生花、利用者と職員と一緒に制作した季節の行事にちなんだ壁の貼り絵などで、利用者に季節の移ろいを感じてもらえるように努めている。特に食事に拘って、3食とも手作りしている。食事係の職員が季節の行事や旬の食材を取り入れた献立を考え、週3日近くのスーパーに買い物に行き、新鮮な食材を購入している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ゆとり庵麻溝グループホーム
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員と理念を作り玄関や事務所に貼り出して共有しケアが統一できるよう努めている。	事業所の理念は法人の理念を基本にして開所時に職員が意見を出し合い作成した。職員は3項目からなる理念、「一人ひとりの気持ちに寄り添います」「その人らしさを大切にします」「季節を感じることを大切にします」に沿って日々のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板などで地域の状況を把握しているが、コロナにより交流はできていない。	自治会に加入して開所時は自治会の会合にも参加していたが、コロナ禍以降は会合や行事も全て中断している。隣に住むオーナーが開所当初から何かと気にかけてくれ、地域の情報などを伝えてくれる。今後は地域の小学校や保育園との関係作りや、ボランティアの受け入れを開始する意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが終息すれば、地域の方の相談窓口になったり、認知症の理解を深めるセミナーなど行えればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況などは運営推進会議のお手紙で報告しているが、意見交換やサービスの向上にはあまり活かされていない。	運営推進会議は、開所以降、書面開催になっている。メンバーの自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地区社協職員、家族、後見人に郵送の報告書を郵送している。報告書に、ご意見欄を設けているが、特段の意見や提案などはない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援センターや社協へは運営推進会議の手紙を郵送し、生保の方がいる為、南生活支援課へ入居者の情報を伝えている。	年2回、南区生活支援課の担当者から、生活保護を受給している利用者の様子を聞くために問い合わせの電話がある。事業所からは、毎月、介護券や、おむつの補助申請を行い、互いに連携を取っている。要介護認定の更新時には南区出張所の担当部署に手続きに向いている。新型コロナの感染者が出	

				た時には、区からマスクや使い捨て手袋等の支給があった。	
--	--	--	--	-----------------------------	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1度開催し、年2回の研修を行っている。施設内には施錠がなく拘束はゼロである。	身体拘束適正化委員会は、3か月ごとに虐待防止委員会と同時開催して議事録は各々作成している。メンバーは管理者、主任、正社員の介護職員4名で構成している。委員会では前回の委員会で上がった課題の振り返り、向精神薬を処方されている方の経過報告や、日々のケアで生じた不適切ケアについて検討している。検討した内容は、議事録を作成して職員に周知を図っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスチェックを行い、必要であれば産業医との面談ができる体制である。虐待の研修を行い、ストレスのないシフト作りを心掛けている。	虐待防止の指針を定め、運営規定に虐待防止を明記している。今年度、市の虐待の一斉点検があり、自己点検シートを提出している。職員は点検の正解表を基に自らのケアの振り返りをしている。職員のストレスチェックの取り組みは法人が行い、産業医のフォローも受けられる。事務所内に「心の相談窓口」の案内を掲示している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で制度を学び、利用者2名の方には後見人がいて連携しながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、十分な理解ができるように説明し同意を得ている。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の要望は職員が聞き取り、家族に伝えるようにしている。コロナ禍でも面会希望があるとZOOMでの面会を行っている。</p>	<p>コロナ禍の影響もあり、家族会や家族を招待した行事が叶っていないが、次年度以降、通常的面会の再開や家族会の発足、運営推進会議への参加の要請などをしていく意向がある。家族の要望を受け、2月から居室で短時間、少人数の面会を再開した。家族との外出や、外食なども再開し、久しぶりに家族と出かけ、食事を共にした利用者が上機嫌で事業所に帰って来られた。通常、家族とのやり取りは社用携帯のショートメールで行うが、急ぎの場合は電話で行っている。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、職員からの意見や要望を発言できる場になっている。	職員が、食事（献立、食材購入リスト作成）、物品発注、行事、居室（衣類の整理、おむつ補充、足りないものを家族に依頼）などの各担当を担っている。毎月のカンファレンスを兼ねたフロア会議で各担当からの報告や、ケアに関して意見交換をしている。年に1回個別面談を実施している。その他、管理者が現場に入る時には機会を見つけて職員と話をするようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得をサポートし、外部研修への参加や正職員への登用など職員が向上心を持てるよう努めている。家庭環境に合わせてシフトを調整している。	毎月のシフトは、小さい子供のいる職員の希望を汲み取り、土・日を休みにしたり、平日に休みたい職員には希望に沿うように、調整している。介護休暇や産休、育休制度、更に正社員には年2日のリフレッシュ休暇が付与されている。60歳定年制としているが、以降も希望があれば嘱託職員として雇用され就労することができる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はビデオでの勉強会が主になっている。資格取得の為の研修参加にはシフトを調整して参加できるよう支援している。	年間研修計画に沿ってビデオ研修を実施している。職員は業務の都合に合わせて研修を受け、報告書を提出している。また法人のキャリアパスに基づき、管理者が資格取得を進言している。今年度も3名が介護福祉士資格を受験している。業務にかかわる資格取得には、法人が費用や交通費を負担し、研修日は勤務扱いとしている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他施設との交流は出来ておらず、コロナ終息時には情報交換や勉強会など開催し、サービスの質の向上に力を入れていると思っている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人様の意向を確認し、ケアプランを作成している。ご家族から生活史を詳しく聞き取りし、安心できる環境作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族の意向を聞き取り、日々の変化や様子をこまめに伝えることで家族が安心できるよう努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、今までの経緯をお聞きし、入所でよいのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを忘れず、できることは手伝っていただき、職員と一緒にいることで生活に役割を持てるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にきていただいたり、家族と外食に行かれたり、今までの関係性を継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの電話を繋いで、お話ししてもらったり、息子様がヘアカットにきて下さったりしている。	いとこや兄弟が面会に来る方がいる。電話や年賀状の取り次ぎや、投函などの支援もしている。毎朝、新聞を読み、テレビを見る事を日課にしている方がいる。毎日、事業所前の広場で地域の方がラジオ体操を始めると、その音楽に合わせて体操をする方がいる。以前理容師をしていた方の家族が、定期的に散髪に来ている。毎日行っている体操の歌を口ずさんだり、カラオケで昔の歌を唄ったりする方もいる。入居して3年もたつと利用者同士が家族のような関係になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流できるように食席を配慮し、会話が楽しめるよう環境を整えている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方へ、写真をアルバムにして送ったり、まだ郵便物が届いたりすると電話をし、近況をお聞きしたりしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お聞きしても明確に意向を伝える方はいませんが、日頃の様子や家族からの情報で把握するように努めている。	認知症の症状が進み、利用者の発語が減る傾向にあるが、トイレや入浴時などで職員と2人きりになると話を始める方が比較的多い。自分の事を話す時もあるが、職員の家族の事などを聞いてくる事が多い。職員に対する不満などを口に出す事もあるが、ほとんどの方は職員に気遣って口に出さない事が多い。利用者が心に秘めている事を表情の変化等を見逃さず汲み取っている。汲み取った思いなどは申し送りノートや、タブレットの「関わり」欄に記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、家族や以前のサービス利用の責任者から情報をいただいて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や以前のサービス利用の責任者から情報をいただき把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時と毎月のカンファレンスによりケアプランの振り返りを行っている。	ケアプランは家族に意見や要望を聞いて作成して提示している。家族からは、「健康に過ごして欲しい、穏やかに生活して欲しい」などの声が多くある。ケアプランに沿ったサービスの実施に向け、管理者は必ずケアプランに沿った記録の入力をするように職員に指導している。職員は毎月のカンファレンスでモニタリングの内容を確認して意見交換している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日様子を記録に残し変化があれば情報を収集して介助方法の変更などを検討しケアの統一に努めている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インシュリンが必要な方は、併設の訪問看護ステーションに依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているのでコロナ終息後には協働できるようにしたいと思っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員は施設のかかりつけのクリニックと契約しているので月2回の往診と24時間オンコール対応してもらっている。訪問歯科も希望者のみ往診を受けている。	利用者全員が協力医と契約をして訪問診療を受けている。協力医は内科以外の精神科や皮膚科にも対応をしてくれ、薬も処方されている。従前からのかかりつけである眼科へ定期的に家族対応で通院している方がいる。月2回、隣接の訪問看護ステーションの看護師が利用者の健康管理のため、来所している。看護師は、毎日のインシュリン注射、必要に応じた処置などにも対応してくれる。利用者全員が訪問歯科医による口腔ケアや必要な治療を受けている。希望者は訪問マッサージを受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護ステーションの看護師が月2回バイタル測定に来られ、急変時などは対応してもらおうこともある。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は訪問医から紹介状を書いてもらい、入院先に情報を伝えることができている。入院後は病院の相談員とやりとりしている。</p>		
----	---	--	--	--

ベテラン職員の指導

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制はととのったが、家族に説明をして意向を確認する作業がまだである。	契約時に看取りの指針に基づき、ホームの方針を説明している。指針は昨年度作成したため、指針作成前に入居された方や家族に現在、順次説明を行っている。今年度、1名を看取っている。不安を口にする職員もいたが、ベテランの職員や、隣接する看護小規模多機能型居宅介護事業所の看護師のアドバイスや協力も得て、連携を取った看取り介護ができています。職員はDVDを使った看取りの研修や、看取り後の振り返りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員もいるので再度研修を行う必要がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、地域との連携はできていない。	今年度は9月に地震想定、12月に日中想定、火災の避難訓練を行っている。夜間想定は3月中の実施を予定している。訓練に隣接の看護小規模多機能型居宅介護事業所や地域との連携は現在できていない。備蓄や備品類はリストを作り、備えている。備蓄品は水やご飯類を中心に備えている。	昨年度も課題に挙げていた備蓄品の種類や全体量の検討が再度望まれます。またコロナ禍で地域との連携を図りづらい状況ではありますが、隣接の看護小規模多機能型居宅介護と連携を取り、地域の自治会や消防団などへ、相互協力体制の構築に向けた働きかけを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
かんりしやせんように	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対し丁寧な言葉で対応しているが、排泄の確認など、大きな声で聞いていることがあるので注意したい。	職員は、入職時に渡されるマナーや接遇の冊子で自己学習をしている。利用者の呼称は名字にさん付けとしているが、同じ名字の方がいる場合は名前で呼んでいる。トイレ誘導の際など大きな声で利用者に「トイレは？」と尋ねる職員には、都度管理者が注意を促して気づいてもらうようにいる。パソコンは管理者専用でパスワードを設定し、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から発信できない方が多いので、気持ちを聞いたり、表情で判断するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす方もいれば、リビングで過ごす方もいて、その方のペースにまかせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは2ヶ月に1回。おしゃれとまではいかないが身だしなみには気を配っている。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>誕生日には食べたい物を提供したりプレート料理を楽しんだり季節の行事食には力を入れている。準備や片付けは一緒に行うようにしている。</p>	<p>食事は季節感を大切に旬の新鮮な食材を使い、3食とも職員が調理している。週3日、近隣のスーパーに行き、食材を購入している。時には刺身や総菜などを取り入れる事もある。調理の音や臭いで五感を刺激し、時間の経過などに意識を向けてもらえるよう配慮している。誕生日や行事には、寿司やピザなどをテイクアウトし、ケーキを購入して祝っている。利用者は、ホットプレートでホットケーキや焼きそば、お好み焼きなどを職員と一緒に作り楽しんでいる。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や禁物を把握し、常食以外に刻みやミキサー食、とろみが必要な方など、その人に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助と週1回の訪問歯科によるケアを継続している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は睡眠を優先する為に、夜間パットやベット上での交換を行う方もいるが、日中はトイレで座っての排泄が主である。	利用者個々の排泄リズムを把握して定時誘導している。現在、自立でトイレに行く方は3名で、パッドを使用の有無はあるが、全員がリハビリパンツを使用している。夜間は睡眠を優先して夜用のパッドを使用する方が多い。立位や座位の取りにくい方も二人介助でトイレの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない食材を取り入れ、薬に頼らないでも便通があるようになってきている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入りたくない日もあるので、都度対応している。	週2回を基本に午前、午後に分け1日3～4名が入浴している。その日の気分で「今日は入らなくてもいい」という方には、時間を変えたり、曜日をずらしたりしながら無理のない入浴を勧めている。浴槽の湯や足ふきマットは、清潔のため一人ずつ交換している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を演出したり、入浴剤も使用して利用者に入浴の時間を楽しんでもらっている。浴室暖房機と脱衣場のエアコンで冬場のヒートショック対策をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に日中、休みたい方は居室で休んで頂いている。リネン交換は週1回、汚染があれば都度交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情を確認し理解している。薬の変更があった時は様子観察して医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなことが楽しめるように趣味などを把握している。カラオケ、麻雀、将棋、塗り絵など。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設での外出はあまりできていないが、コロナが緩和すれば外出レクを復活させたい。家族との外出は支援している。時々外食に行かれる方がいる。	コロナ禍以降、同一建物に3事業所があり、同じ玄関を使用している為、接触を避ける理由もあり、外出や散歩も控え、自動販売機で飲み物を購入する際に外に出る位に留めていた。今春には、通所介護事業所の車を借りて花見に行く予定にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金や高価な物の持ち込みは控えてもらっているが、小銭をお預かりし自販機でジュースを購入する方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙をやりとりされている方には、ポストへの投函を支援している。お姉様と電話で話される方もいるので支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日陽が差し込むリビングで居心地がよい空間になっている。	広々としたリビングは明るい日差しが射し込み、冬でも天気の良い日は暖房が必要ないほど暖かい。リビングには大型の空気清浄機を設置し、時間を決めた換気と、日に3回の消毒で感染症対策をしている。利用者も朝の掃除や手すりの消毒を手伝っている。フロアには季節に応じて職員と利用者が共同制作した貼り絵や、生花、観葉植物を飾り季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にもテレビの前にソファがあったり、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や、思い入れのある物を置かれている。自分で塗った絵やぬいぐるみを飾っている方もいて、落ち着いた空間になっている。	居室には介護ベッド、寝具一式、エアコン、チェスト、クローゼット、照明、防災カーテンが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具やテレビ、加湿器などを持ち込んでいる。愛着のあるぬいぐるみや写真を飾っている。配偶者の位牌を置き、遺影を飾っている方もいる。自分で居室の掃除をする方もいる。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>お部屋がわかるように名前を貼ったり、トイレや浴室にもわかりやすくマークがある。階段は少し幅が広く安全で廊下には手摺が完備されている。</p>		
----	--	---	---	--	--

事業所名	ゆとり庵麻溝グループホーム
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員と理念を作り玄関や事務所に貼り出して共有しケアが統一できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板などで地域の状況を把握しているが、コロナにより交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが終息すれば、地域の方の相談窓口になったり、認知症の理解を深めるセミナーなど行えればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況などは運営推進会議のお手紙で報告しているが、意見交換やサービスの向上にはあまり活かされていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援センターや社協へは運営推進会議の手紙を郵送し、生保の方がいる為、南生活支援課へ入居者の情報を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1度開催し、年2回の研修を行っている。施設内には施錠がなく拘束はゼロである。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスチェックを行い、必要であれば産業医との面談ができる体制である。虐待の研修を行い、ストレスのないシフト作りを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で制度を学び、利用者2名の方には後見人がいて連携しながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、十分な理解ができるように説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は職員が聞き取り、家族に伝えるようにしている。コロナ禍でも面会希望があるとZOOMでの面会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、職員からの意見や要望を発言できる場になっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得をサポートし、外部研修への参加や正職員への登用など職員が向上心を持てるよう努めている。家庭環境に合わせてシフトを調整している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はビデオでの勉強会が主になっている。資格取得の為の研修参加にはシフトを調整して参加できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設との交流は出来ておらず、コロナ終息時には情報交換や勉強会など開催し、サービスの質の向上に力を入れたと思っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人様の意向を確認し、ケアプランを作成している。ご家族から生活史を詳しく聞き取りし、安心できる環境作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族の意向を聞き取り、日々の変化や様子をこまめに伝えることで家族が安心できるよう努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、今までの経緯をお聞きし、入所でよいのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを忘れず、できることは手伝っていただき、職員と一緒にいることで生活に役割を持てるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にきていただいたり、家族と外食に行かれたり、今までの関係性を継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの電話を繋いで、お話ししてもらったり、息子様がヘアカットにきて下さったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流できるように食席を配慮し、会話が楽しめるよう環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方へ、写真をアルバムにして送ったり、まだ郵便物が届いたりすると電話をし、近況をお聞きしたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お聞きしても明確に意向を伝える方はいませんが、日頃の様子や家族からの情報で把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、家族や以前のサービス利用の責任者から情報をいただいて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や以前のサービス利用の責任者から情報をいただき把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時と毎月のカンファレンスによりケアプランの振り返りを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日様子を記録に残し変化があれば情報を収集して介助方法の変更などを検討しケアの統一に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インシュリンが必要な方は、併設の訪問看護ステーションに依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているのでコロナ終息後には協働できるようにしたいと思っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員は施設のかかりつけのクリニックと契約しているので月2回の往診と24時間オンコール対応してもらっている。訪問歯科も希望者のみ往診を受けている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護ステーションの看護師が月2回バイタル測定に来られ、急変時などは対応してもらったこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問医から紹介状を書いてもらい、入院先に情報を伝えることができる。入院後は病院の相談員とやりとりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制はととのったが、家族に説明をして意向を確認する作業がまだである。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員もいるので再度研修を行う必要がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、地域との連携はできていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対し丁寧な言葉で対応しているが、排泄の確認など、大きな声で聞いていることがあるので注意したい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から発信できない方が多いので、気持ちを聞いたり、表情で判断するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす方もいれば、リビングで過ごす方もいて、その方のペースにまかせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは2ヶ月に1回。おしゃれとまではいかないが身だしなみには気を配っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたい物を提供したりプレート料理を楽しんだり季節の行事食には力を入れている。準備や片付けは一緒に行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や禁物を把握し、常食以外に刻みやミキサー食、とろみが必要な方など、その人に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助と週1回の訪問歯科によるケアを継続している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は睡眠を優先する為に、夜間パットやベット上での交換を行う方もいるが、日中はトイレで座っての排泄が主である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない食材を取り入れ、薬に頼らないでも便通があるようになってきている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入りたくない日もあるので、都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に日中、休みたい方は居室で休んで頂いている。リネン交換は週1回、汚染があれば都度交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情を確認し理解している。薬の変更があった時は様子観察して医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなことが楽しめるように趣味などを把握している。カラオケ、麻雀、将棋、塗り絵など。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設での外出はあまりできていないが、コロナが緩和すれば外出レクを復活させたい。家族との外出は支援している。時々外食に行かれる方がいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金や高価な物の持ち込みは控えてもらっているが、小銭をお預かりし自販機でジュースを購入する方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙をやりとりされている方には、ポストへの投函を支援している。お姉様と電話で話される方もいるので支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日陽が差し込むリビングで居心地がよい空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にもテレビの前にソファがあったり、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や、思い入れのある物を置かれている。自分で塗った絵やぬいぐるみを飾っている方もいて、落ち着ける空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋がわかるように名前を貼ったり、トイレや浴室にもわかりやすくマークがある。階段は少し幅が広く安全で廊下には手摺が完備されている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ゆとり庵麻生グループホーム

作成日 R5.5.27

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設内での訓練は実施しているが、地域、自治会との協力体制を築けていない。	地域と災害時の協力体制を築く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦運営推進会議の開催。</li> <li>◦自治会や消防団への働きかけ。</li> <li>◦看外機との連携</li> </ul>	6ヶ月
2	35	備蓄品の種類、全体量が少ない。	備蓄品の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦備蓄品の購入</li> <li>◦リストの作成</li> </ul>	6ヶ月
3	35	夜専が夕いので夜間帯の安全面が不安である。	夜間帯の安全面強化。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦夜専職員に避難訓練実施。</li> <li>◦日勤と夜勤の連携</li> </ul>	6ヶ月
4	33	看取りについての家族の意向など聞きとりがまだ乏しい。	家族と対面で意向の確認をね。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦家族との面談日を調整し、意向を確認する。</li> </ul>	1年
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。